



い ず み

令和5年2月1日発行

<学校教育目標>

かしこい子
やさしい子
たくましい子

学校HP



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

和泉小学校の変化

教務主幹 堀口 剛

今年度も残すところ二ヶ月となりました。子供たちの登校日数はあと36日です。「終わり良ければすべて良し」ではありませんが教職員一丸となり残りの一日一日を大切に指し導に努めて参ります。

さて、私が和泉小学校に着任したのは今から4年前になります。その時の和泉小の子供たちは、指示通りに動くことはできましたが、全体的に「指示待ち」というイメージがありました。そこで、子供たちの主体性を第一に考え、どのようにすれば「自分たちの学校を自分たちでつくる」という意識が高まり子供たちが行動できるようになるかを学校全体で考え教育活動を行ってきました。その結果、子供たちは今の自分たちでできることをやろうという思いが芽生え、「よりよいこと」を目指してアクションを起こす子供たちへと少しずつ変わってきています。様々な取組の種をまき、試行錯誤しながら進めてきたことが今の子供たちの姿につながってきていると感じます。教務主任として学校全体を見ていると教職員と子供たちが学校の課題を見つけ、よりよいものを目指す姿が重なって見えます。

子供たちの姿をいくつか挙げると、代表委員で決めたノーチャイムの取組では、休み時間に外で遊んでいても時計を見て行動し次の授業に遅れることなく行動できています。その他にも、学年の枠を越えた異学年交流、魅力あふれる委員会活動、SDGsの取り組み、時間割を自分たちで作るなど学校でどのようなことができるのか、自治意識が高まり「やってみよう、やってみよう」という前向きな姿が数多く見られるようになりました。

和泉小は、よりよい自分、よりよい学級、よりよい学校を自分たちで作る、そんな活気溢れる学校を目指しています。そのための取組の一つとして本校では、各学年、けやき教室で学年経営マップを作成し毎学期ごとにどのような力を身に付けさせるかを考え、そのための具体的な取組を一枚の紙にまとめています。大事なことはその経営マップを子供たちと共有することです。目指す山の頂上（ゴール）を共有することで、どのような道のり（活動）を歩いていくのか子供たちは考え行動にうつすことができます。そして、個の目標設定、振り返りだけでなく集団としてどのように自分たちが変わっていくことができるのか実感できるのではないかと思います。

子供たちの発想や行動力は無限大です。我々教職員一同もそのパワーに負けないよう指導に努めて参ります。そして、子供たちがよりよい自分のあり方（Well-being）を目指していくと同様に教職員も Well-being を目指します。誰もが安心してよりよい自分を目指していける学校にしていくために私たちは保護者、地域の皆様と課題や教育ビジョンを共有して一体となり、子供たちに多様な経験を積ませ育てていきたいと考えています。今後とも本校の学校教育へのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。